

第三回 ITトレンド研究会 議事録

日時: 2012/03/06(火)14:00~17:00

会場: 丸紅ビル B1F A 会議室

テーマ: 私物解禁! BYOD(私物機器の業務利用)の活用事例ご紹介
~BYODは止められない、情報システム部門にはどんな変化が求められているのか~

講演者: シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社
マーケティング本部 プロダクトマーケティング シニアマネージャー
竹内 裕治 氏

司会・進行: ITトレンド研究会座長
TIS 株式会社
IT 基盤サービス本部 IT 基盤サービス第 2 事業部 IT 基盤サービス第 2 部 主査
中村 和弘 氏

当研究会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

◆第一部

竹内様のご講演

◆ 第二部

ディスカッション

<A社>: 社内の BYOD 状況ですが、私物持ち込みはポリシーで禁止しています。今回は、各社の BYOD 各社の考え方を知りたく参加しました。

<B社>: 社内の BYOD 状況は、営業部門や上層部などが客先でスマートデバイスを利用したいと思っていますが、管理上の問題や、コスト面の影響で私物利用に関しては進んでいません。今回の参加理由としては、私物のスマートデバイスの接続を指定のネットワークだけに接続させることや、どのようにユーザへ啓発すればいいのか知りたいからです。

<C社>スマートデバイスや Citrix 製品、SaaS をお客様に提案している立場です。社内の BYOD 状況としては、導入が進んでいません。今回は提案方法などを含めて勉強するために参加しました。

<D社>顧客には無線 LAN の導入に伴いスマートデバイスの提案や、端末管理の観点から MDM 製品を顧客に提案しています。現在のところ導入が行なわれていません。顧客が BYOD という観点で本格的に導入検討が進んでいないことが多いので、各社の BYOD の状況を伺いたく参加しました。

<E社>関連会社では、会社支給による iPad 導入を検討しています。来期 4 月から本社の営業に iPad を持たせる計画はありますが、私物を利用させるところまで必要性は感じていません。

<F社>BYOD 状況ですが、社内での必要性は感じていません。

<G社>お客様の中で BYOD を推進するための決定的な課題とはなにか? もしくはどの課題が解決できなれば BYOD が推進されないのか知りたいです。また、BYOD を行なう上で、小規模環境(10 人くらい)向けの製品や試用で BYOD を利用できる製品があれば知りたいです。

<H社>モバイルデバイスを利用してメールとスケジュールの同期を行なっています。リモートデスクトップとしては一部社員を除いて業務として正式には利用していません。

BYODを大企業で全社一括導入を行なうことを除いて、中小企業向けの安価な製品がないので、顧客に提案しにくいのが現状です。これらの課題を解消するヒントを得るために参加しました。

<I社>首都圏の営業にiPadを一斉導入し、4月以降に関西圏でiPad導入が始まります。社内のBYOD状況ですが、基本的には禁止していますが、一部私物デバイスを利用しているところもあり、今後は正式に私物利用の容認も検討しないといけないと感じています。

<J社>以前は私物PCなどの持込は禁止していました。しかし、個人所有のスマートデバイスなどの持ち込みが行なわれている現状があるため、「個人所有のデバイスを持ち込んだ際、会社の情報をスマートデバイスに持ち出してはいけない」というポリシーに変更を試みているところです。社員からはスマートデバイスを社内のメールやスケジュールなどを見たいという要望が少しずつ出ています。どのようにBYODとして社内を説得すればいいのか話を伺いたいです。

<K社>私物デバイスは持込禁止としていますが、勝手にスケジュールを個人所有のiPadに同期していることがあります。また、遠方の社員が社内PCを持ち帰っている場合があります。完全に私物デバイスを利用禁止するのか、一定の基準を設けて私物利用を許可し情報を利用してもいいのかが知りたいです。

<L社>お客様に提案する立場ですが、顧客に説明する前に、ノウハウがないので社内情報システム部門に対して提案を行なっています。社内では、今年3月からMDMとCitrix製品の導入が決まりました。BYODも同時に進めてきましたが、社内の抵抗があるため進んでいません。また、社内向けにBYODの実現ができるのかというノウハウを知りたいです。

<M社>社内のポリシーにより私物の持込を禁止しています。社内のセキュリティ監査ではOKとなっていますが、実際はディスプレイやキーボードなどを持ち込んでいます。PCの外側の箱はそのままですが、PCメモリやマザーボードなどがすべて私物となっていたケースもあったので、そもそも「私物の定義とは何か?」という点から議論したいです。BYODを行なうために、デバイスとシステム間のネットワーク帯域と通信の安全性についてどのように確保されているのか伺いたいです。

<N社>社内のBYOD状況ですが、社内ポリシーで明確に禁止されています。海外出張の時にPCを持ち出すほどではありませんが、メールなどのチェックを行なうことが必要となります。私物のiPadを利用できないか等の問い合わせが多くなってきました。最近社内に導入したiPad・iPhoneの利用に加えて、BYODの観点からお話を伺いたいです。

<O社>原則、社内PC持ち出し禁止、私物持込禁止というポリシーで運用しています。ただ、社内に十分な持ち出しPCがないことや、営業からの要望により申請を行えば、社内ネットワークに接続させないことを前提条件として私物PCを持ち込んでいいとしています。

<P社>お客様に製品を提案する立場です。明確にBYODの線引きが行なわれていないことが多く、スマートデ

バイスの導入を提案することも増えているため、BYOD の考え方を知らるために参加しました。

＜Q 社＞自社のコンサルティング部隊に昨年 9 月から iPhone を約 100 台持たせています。BYO の前に社内 PC で VDI の導入を検討していました。その背景としては、社内 Web システムが IE6 でのみ動作するということになっていたためです。また、Windows XP のプレインストール版を社内の Windows 7 への導入に関する情報が欲しいです。

なお、BYO の観点では、私物の USB メモリを社内利用することは禁止していたのですが、実際には全員が私物の USB メモリを利用していました。多くの人が私物デバイスを利用しているので、BYOD を認めるという必要性も感じました。PC は購入したことがある各社の利用方法に関する情報を提示し Citrix の事例を伺いたく参加しました。

以下、ディスカッション=====

◆BYOD を加速させるポイントは

Q: ＜座長＞現状 Citrix 製品の価格がネックなのだが、小規模 (20 台くらい) で利用できる安価な製品はありますか？

→＜講演者＞小規模で手軽に VDI を利用できる製品を提供予定です。(製品名: VDI-in-a-BOX)

従来は AD や VDI のコントローラ、共有ストレージ、ロードバランサ等、多くのコンポーネントが必要でしたが、小規模環境向けに各コンポーネントを纏めて、必要な機能をすべてオールインワン構成で簡単に VDI を利用できるようになります。Microsoft Hyper-V や VMware ESX/vSphere、Citrix XenServer の主要な仮想環境に対応しています。しかし、VDI のみ、Server Desktop の共有や Netboot、Client Hypervisor などには対応していません。

後日注: 4/2 から提供開始しています。情報はこちらです。

http://www.citrix.co.jp/products/vdi-in-a-box/index.html?link_id=tkvb02

Q: ＜G 社＞価格は？

→＜講演者＞大規模向けの VDI ソリューションに比べて、かなり安価になる予定です。

Q: ＜G 社＞Sier がクラウドで VDI-in-a-BOX を提供することはありますか？また、VDI-in-a-BOX を小規模環境向けに試用及び評価を行なうことができますか？

→＜講演者＞サービスとして提供する事を検討しているところはあると思います。ただし、エンドユーザーが利用するシナリオでは、XenDesktop とほとんど変わらないでしょう。クラウドで試用評価に関して必要な場合は、VDI-in-a-BOX である必要性はないと感じている。

◆ネットワークの帯域確保はどのくらい必要か

Q: ＜M 社＞Citrix の自社の運用に関してオーストラリアにデータセンターがありますが、帯域の確保はどのように行なっているのか、もし事例があれば教えていただきたいです。

→＜講演者＞すぐにわからない。

◆ネットワーク帯域確保の方法について

Q: ＜M 社＞画面転送型のシンクライアント製品に移行をするときに既存システムで確保しているネットワークが帯域との兼ね合いに関するコンサルティングの事例やアドバイスがあれば教えていただきたいです。

→＜講演者＞コンサル部隊が現場でどのようなことを行なっているかは不明ですが、ネットワーク負荷を考慮し

で段階的に効果の高いところから移行を行なっています。また、コンサル時にはネットワークのモニタリングを行なうツールを利用して支援しており、顧客別にネットワークの実測値に即した帯域確保をするための提案も可能です。

→<M社>移行時は最も情報システム管理者が大変であり、特にリプレースに関しては経営層も注目するので、細心の注意を払いながら移行を行なう必要があります。

◆XenDesktop の仮想環境とローカル環境の運用ポリシー

Q:<Q社>業務で XenDesktop の仮想環境とローカルの環境を両方使うことができますが、ローカル環境で業務を行なうことはありますか？

→<講演者>あります。

Q:私物の PC に監査を行なう場合はどのようになりますか？

→<H社>監査行為に対して、私物といえども情報を開示するリスクを承知の上で監査を行ないます。

→私物のデバイスを業務利用するに際はいかがですか？

→<N社>あらかじめ利用者に利用誓約書に同意を得ておく必要があります。

◆BYOD による労務管理には変化

Q:<H社>Citrix では BYOD に伴い、自宅で仕事を行なうことが想定されますが、労務形態として認められているのでしょうか？

→<講演者>(労務形態という意味を正確に理解していないかもしれませんが、)自宅で仕事することは正式に認められています。社外で業務することが認められているので、自宅であっても、該当する場合は残業代(所定時間外労働の対価)が支払われます。

◆Citrix での運用の失敗

→<講演者>個人的には BYOD に関連して、家で仕事を行なうと捗らないことがあります。家族がいるなど、完全に業務に集中する状態を確保するのが難しい場合があるからです。

→<同席者>あまり不便を感じないですが、会社の労務規定に合うのか疑問を感じる場合があります。

◆BYOD による通常の運用との相違点は？

→<講演者>利用者側は社内データの保存場所、管理側は管理対象のデバイスとするかの判断が必要になります。BYOD 適用が拡大すれば、運用管理コストの削減の可能性も拡大するのも違いです。

=====

<まとめ>

BYOD を実施するためには、技術、セキュリティ、労務上の問題をクリアしないといけない。

※議事録収録にあたり、発言内容を一部訂正、または削除している箇所があります。現時点で正確な情報とすること、意図と異なる憶測を呼ぶ可能性を排除したいためです。ご了承下さい。